

街の樹木

都市樹木研究室

公園・緑地の植栽点検シリーズ

第6回



樹木の安全点検

倒木や落枝の危険を発見しよう!

その3 腐朽・空洞



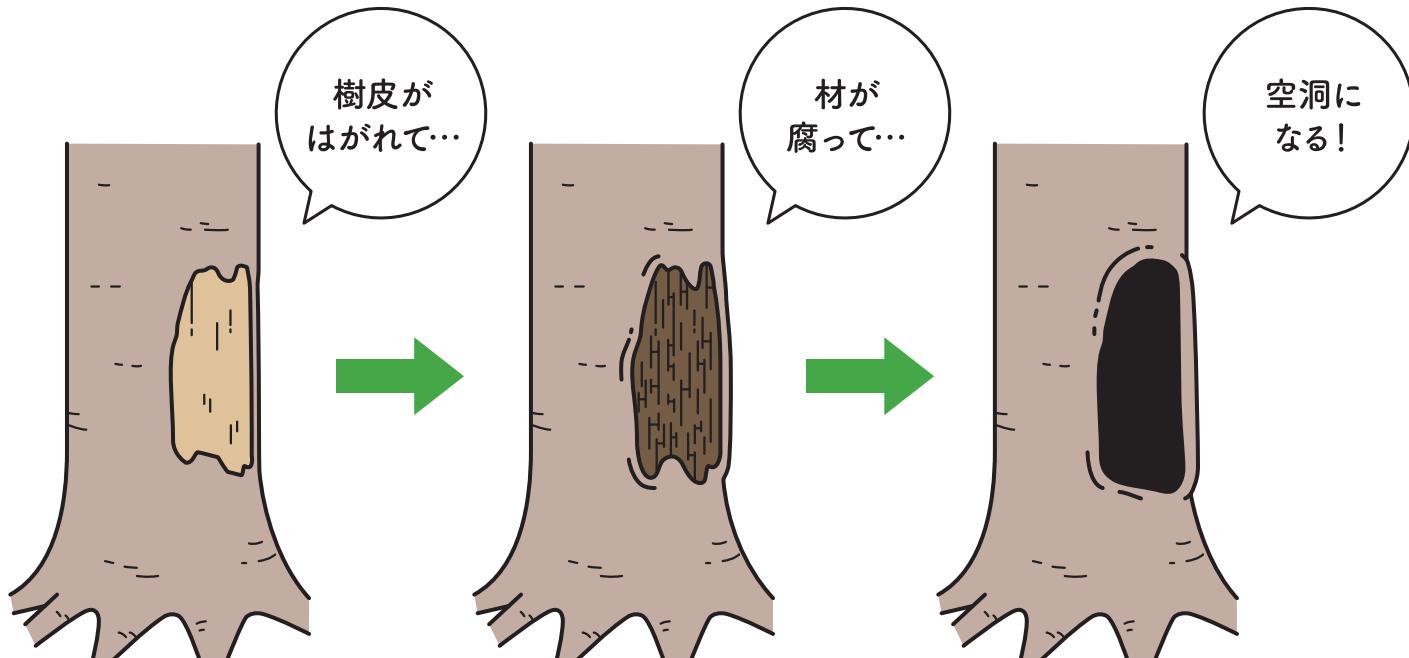
樹木の幹や枝が折れる原因の一つとして腐朽や空洞の被害が挙げられます。幹や枝がボロボロに腐ってきたり、大きな穴が空いていたりすると折れないか心配になるかもしれません。今回は被害を見つけるだけでなく、危険な状態か判断するためのポイントについて紹介します。

1

腐朽や空洞が生じるまで

樹木の腐朽や空洞の被害はどのようにして生じるのでしょうか？

枝が折れたり硬いものが擦れたりして樹皮が剥がれるとその下の“材”の部分が露出します。被害が小さく樹木が元気な場合は、周りの組織が発達して傷口が短期間で塞がますが、被害が大きい場合や樹木が弱っている場合は回復しなかったり、回復に時間がかかります。樹皮は外敵の侵入を防ぐ役割を果たしているため、**樹皮がなく、材が長期間露出した状態**になると**腐朽菌が侵入して材が分解されはじめます**。分解が進むと強度が低下し、幹や枝折れの原因になります。更に腐朽が進むと材がボロボロになって崩れ、空洞になります。

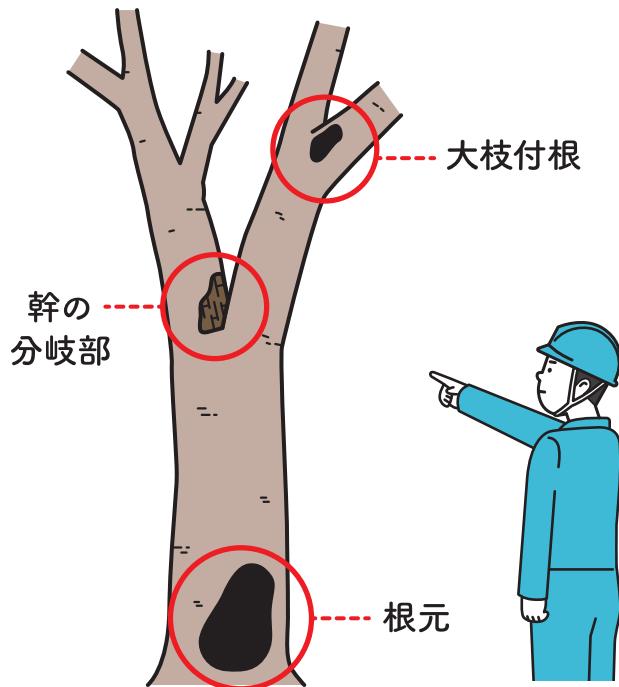


2

危険な腐朽や空洞を見分けよう！

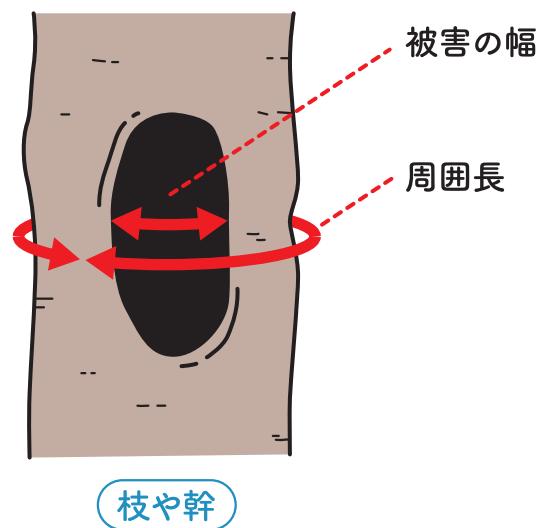
Point 1 被害の場所を確認しよう！

腐朽や空洞の被害がどこにあるか確認しましょう。根元や幹の分岐部、大枝の付根など、支点になる位置に被害がある場合は特に折損のリスクが高まるので注意しましょう。



Point 2 被害の大きさを確認しよう！

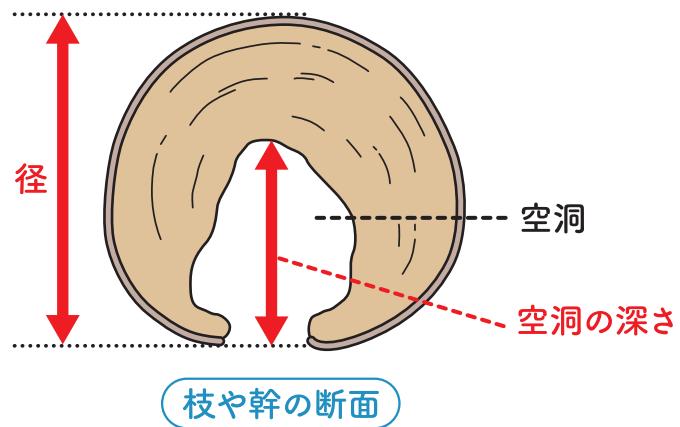
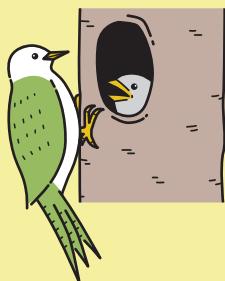
被害の幅とその被害がある箇所の幹や枝の周囲長を測ってみましょう。直接手が届かない場合は、目測でも構いません。**被害幅が周囲長の1/3以上**ある場合は注意が必要です。空洞の場合は、空洞の深さも測りましょう。周囲長比率が1/3以上で**深さが被害箇所の幹や枝の径の1/2以上**ある場合は折損の危険性が非常に高いため直ぐに処置しましょう。



コラム

樹木空洞は 色々な生き物のすみか

樹木の幹や枝にできた空洞は様々な野生生物のすみかになります。普段人が立ち入らず、リスク管理上問題ない場所であれば、伐採せずに残すことも検討しましょう。



※リスクや処置の適切な判断が難しい場合は樹木医などの専門家にご相談下さい。

公園・緑地の植栽点検・講習のご依頼は株式会社エコルまで！

